

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	医学総論	担 当 教 官 名	川島 和彦
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	医学総論		
授業の概要 及び到達目標	現在の医療は、医師や看護師のみでなく様々な専門性が異なる医療・介護スタッフがチームを組み、質の高いサービスを提供することが求められています。そのためには、それぞれの職種ごとに医療総論が教育されてきた以前とは異なり、どの専門職に就くにも医療全体を見渡す視野が必要となり、共通の基礎学問を学ぶ必要が出てきました。医療を理解するには、先端科学のみに眼を奪われるのではなく、思想や政治経済など社会的背景も理解することが大切です。本講義では、あえて統計的な知識の羅列をさげ、こうした背景について繰り返し授業する予定です。初めて医療系の教育を受ける皆さんにも理解しやすいよう平易な講義をする予定ですが、専門職に就く自覚も同時に培っていただければと考えています。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学の歴史～21世紀の医療</li> <li>2. 災害医療</li> <li>3. 健康とは何か(がん治療を中心に)</li> <li>4. 死を考える(医の倫理)</li> <li>5. 医療と経済:医療システムを考える 精神保健:母子保健～認知症</li> <li>6. 医療安全</li> <li>7. 次世代の医療</li> <li>8. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	書名:現代医学概論第3版 著者名:柳澤信夫 出版社:医歯薬出版 (参考)書名:学生のための医療概論 第4版 著者名:小橋 元 他 出版社:医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期テスト		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	皆さんは、将来「医療の専門家になる」ということを意識して取り組んでいただきたいと思います		

2025 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	嚥下障害概論	担当教官名	上羽 悟
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	嚥下障害、5期モデル、スクリーニング		
授業の概要 及び到達目標	<p>摂食嚥下障害は、言語聴覚士として関わる頻度が高い障害になります。1年次前期では、摂食嚥下に関わる解剖・生理・機能を覚え説明できることを目標とし、授業形態としては、座学だけではなく演習を含め実施します。</p> <p>実務者経験： 介護老人保健施設にて9年、回復期リハビリテーション病院にて3年の経験。成人・高齢者に対してのリハビリテーション業務を行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食嚥下障害について</li> <li>2. 摂食嚥下障害に関わる各種器官について①</li> <li>3. 摂食嚥下障害に関わる各種器官について②、5期モデル・プロセスモデル</li> <li>4. 「先行期」「準備期①」</li> <li>5. 「準備期②」「口腔期①」</li> <li>6. 「口腔期②」「咽頭期①」</li> <li>7. 「咽頭期②」</li> <li>8. 「食道期」</li> <li>9. 口腔機能について</li> <li>10. 食欲・味覚・唾液・鼻腔について</li> <li>11. 摂食嚥下機能の加齢変化</li> <li>12. 食事形態について</li> <li>13. 評価 スクリーニングテスト①</li> <li>14. 評価 スクリーニングテスト②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後の予習・復習		
教科書・教材等	「標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版」医学書院 藤田郁代		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習（パソコン、プロジェクター、検査機器など）		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	摂食嚥下機能に関する「神経」「筋」は難解で、繰り返しの学習暗記が必要です。ここを十分理解することが今後の学習の基礎となるためしっかり復習してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	音響学	担当教官名	高橋 絵留美
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	音、音声、音源フィルタ理論、音響分析		
授業の概要 及び到達目標	<p>音声も音という物理現象の一種である。この講義を通じて、音という現象に関する基礎知識を学び、「ヒトが話す」という行為について物理的な側面からの視点を持つようになることを目指す。特に本講義では、言語聴覚士国家試験問題を解く上で重要となる音響学の用語について網羅し、実際の国家試験問題に取り組みながら基礎知識を身に付けることを目指す。</p> <p>[到達目標] 本講義では、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。          ①音響学の基礎用語を理解し、その定義や内容について説明できる。          ②音響学の言語聴覚士国家試験問題の概要を理解し、対応できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音響学国家試験問題の概要 音とは 波の基本/疎密波と音圧/音波の性質/音波の波長・周期・周波数・音速/ 単振動と純音/音圧レベルと音の大きさのレベル</li> <li>2. 時間波形と周波数スペクトル 純音の場合/周期的複合音の場合/非周期音の場合</li> <li>3. 音響管の共鳴 一様音響管</li> <li>4. 音声生成の音響理論 線形時不変システム/音源(ソース)フィルタ理論/音源の特性/ 声道の伝達特性/放射特性</li> <li>5. 音声の信号処理① デジタル信号処理/AD変換とDA変換/標本化定理/スペクトル分析</li> <li>6. 音声の信号処理② サウンドスペクトログラム</li> <li>7. 音声の音響分析① 母音の音響特性と知覚/子音の音響特性と知覚</li> <li>8. 音声の音響分析② 連続音声の中の母音と子音/超分節的要素の音響特徴と知覚</li> </ol>		
準備学習	授業前後、自身の理解度に応じて、STテキストの該当する箇所を確認すること。		
教科書・教材等	『言語聴覚士テキスト』(医歯薬出版株式会社)		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	講義では、特に、国家試験に出題される内容について理解ができることを目指します。音響学に対して苦手意識を持たれている方も少なくないかと思いますが、STテキストに書かれている内容を把握することで、解くことができる問題も多くあります。何より、問題に慣れることが大切です。焦らず、諦めず、取り組んでいただければと思います。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(専修)	専門基礎分野
授業科目名	音声学 I	担当教官名	古田 功士
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	調音(構音)、国際音声記号、音素、アクセント		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要: 音声を記述する方法と意義について学ぶ。IPA(International phonetic alphabet:国際音声字母)という記号を知り、実際の音声を記述する手法を学びます。また音声学に関連する音韻論についても紹介します。</p> <p>到達目標: 日本語の発音(調音)について音声学的に説明できる。また音素とIPAを用いて日本語の音声を記述できる。</p> <p>【実務経験】言語聴覚士として、15年以上、病院における成人領域の言語聴覚療法に従事。言語障害や発声発語障害のリハビリテーションにも多く関わった。また言語聴覚士養成校における音声言語関係の非常勤講師としても10年以上の経験を持つ。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声学の位置</li> <li>2. 音声学の基礎</li> <li>3. IPAについて、子音の分類とIPA①</li> <li>4. 子音の分類とIPA②</li> <li>5. 母音の分類とIPA③</li> <li>6. 音韻論の基礎</li> <li>7. 日本語の音素・音韻・IPAについて①</li> <li>8. 日本語の音素・音韻・IPAについて②</li> <li>9. 日本語をIPAで表記する練習①</li> <li>10. 日本語をIPAで表記する練習②</li> <li>11. 音の結びつきについて</li> <li>12. 表音文字と音声表記について</li> <li>13. 超分節的要素について</li> <li>14. アクセントを表記する練習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業の前後で、自身の理解度に応じて配布資料や教科書を確認すること。また習った発音について自ら発音して取り組むことも推奨される。		
教科書・教材等	教科書:『言語聴覚士テキスト第4版』、『新 ことばの科学入門』 廣瀬肇訳 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	科目修了試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	音声学は講義で学ぶ部分もありますが、最終的には自分のクチやノドを使った体感と一致させることが学びの上でも、実技としての有用性においても必要だと思います。ぜひご自身で取り組んでいただくことをお勧めします。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖学	担 当 教 官 名	浜田智子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	細胞と組織、骨と筋、循環器、呼吸器系、胚葉と発生		
授業の概要 及び到達目標	<p>解剖学では人体の構造を学ぶ。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。①身体の基本構造を理解する。②人体の各器官がどのようにできるかを理解する。③消化器系・呼吸器系・泌尿器系・内分泌系の構造と働きを理解する。  <b>実務経験:</b>大学病院の口腔外科にて脳血管障害、循環器疾患、糖尿病などの全身疾患を有した有病者の急性期観血的処置治療や入院下の全身管理下に口腔顎顔面領域の診療に従事。大学で研究の傍ら医療系の学生指導の経験を積む。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖学の学び方 細胞と組織</li> <li>2. 消化器系</li> <li>3. 呼吸器</li> <li>4. 泌尿器</li> <li>5. 内分泌系</li> <li>6. 発生学</li> <li>7. まとめ</li> <li>8. 試験と解説</li> </ol>		
準備学習	授業前に指定教科書の予習を行きましょう		
教科書・教材等	シンプル解剖生理学 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	テスト(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	受講にあたり毎回の予習・復習が大切です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基準)	専門基礎分野
授業科目名	学習認知心理学	担当教官名	武田 悠衣
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	学習心理学 知覚心理学 認知心理学		
授業の概要 及び到達目標	<p>本講義では、学習心理学、認知心理学、知覚心理学の基礎を体系的に学び、人間の学習・認知・知覚のメカニズムを理解することを目的とする。学習の理論(古典的条件づけ、オペラント条件づけ、認知学習など)、記憶や注意、問題解決といった認知機能、視覚や聴覚を中心とした知覚の仕組みについて学ぶ。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①学習心理学、認知心理学、知覚心理学の基本概念と主要な理論を説明できる。                  ②それらの理論を具体的な事例に適用し、学習や認知の過程を理解できる。                  ③心理学的視点を用いて、日常生活や教育・実践の場面における問題を考察できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・学習認知心理学の概要</li> <li>2. 学習心理学①</li> <li>3. 学習心理学②</li> <li>4. 学習心理学③</li> <li>5. 学習心理学のまとめ・小テスト・知覚心理学①</li> <li>6. 知覚心理学②</li> <li>7. 知覚心理学③</li> <li>8. 知覚心理学④</li> <li>9. 知覚心理学⑤</li> <li>10. 知覚心理学のまとめ・小テスト・認知心理学①</li> <li>11. 認知心理学②</li> <li>12. 認知心理学③</li> <li>13. 認知心理学④</li> <li>14. 認知心理学⑤</li> <li>15. 全体のまとめ(定期試験解説)</li> </ol>		
準備学習	<p>各回の講義内容に関連する資料(教科書や教官が配布するレジュメ)を読み、基本的な用語や概念を把握してください。また、小テストや定期試験に向けて、講義ノートの復習と理解の確認を行うことが求められます。</p>		
教科書・教材等	<p>教科書:言語聴覚士のための心理学 医歯薬出版                  教材 :教官が作成したレジュメを毎回配布</p>		
授業の形式 教育機器の活用	<p>講義(PC、プロジェクター、検査機器等)</p>		
成績評価の方法	<p>定期試験 80% 小テスト 20%</p>		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>学習認知心理学の知識は、国家試験にも出題される重要な領域です。また、学習・記憶・注意・知覚のメカニズムに関する理解は、教育や人材育成、自己学習の向上など、幅広い場面で役立ちます。人の学習や認知の仕組みを理解することで、効果的な学習方法を考案したり、記憶や注意を向上させたりすることが可能になります。本講義を通じて、心理学的知見を日常生活や実践に活かす力を養うことを目指します。</p>		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	形成外科学	担 当 教 官 名	山脇 吉朗
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	形成外科学・創傷治療(創傷治癒過程)・唇顎口蓋裂・鼻咽腔閉鎖機能		
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形成外科が扱う主な疾患・形成外科の基本手技 の概要を学ぶ。</li> <li>・急性創傷、慢性創傷の取り扱いを学ぶことで創傷治癒過程を理解する。</li> <li>・唇顎口蓋裂をはじめとする顔面の先天異常についての詳細を学ぶ。</li> <li>・口蓋裂言語の詳細を理解する。</li> <li>・頭頸部悪性腫瘍などの再建手術について概要を理解する。</li> </ul>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 形成外科総論 皮膚の解剖と生理 創傷治癒</li> <li>2. 組織移植 形成外科の基本手技 軟部組織欠損の被覆(閉創)方法 植皮術 皮弁形成術(有茎組織移植術)</li> <li>3. 急性創傷(顔面外傷、熱傷 など)</li> <li>4. 慢性創傷(褥瘡、皮膚潰瘍 など)</li> <li>5. 顔面の先天異常 唇顎口蓋裂、その他の顔面先天異常</li> <li>6. 口蓋裂言語(1) 正常構音 口蓋裂言語(開鼻声・異常構音)</li> <li>7. 口蓋裂言語(2) 診断・治療 口蓋裂とその類縁疾患</li> <li>8. 頭頸部再建、瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイド、その他 補足事項</li> </ol>		
準備学習	授業前後に予習・復習をしてください。		
教科書・教材等	言語聴覚士テキスト、配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	臨床写真・音声などを供覧しながら講義します。写真撮影や録音は厳に慎んでください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語学 I	担当教官名	正田久美
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語、音声、言語理解		
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士の仕事に必要な「言葉」に関する理解を深める。臨床現場に役立つ、応用できる言語学の知識を身につけ、公私において自身が使う「言葉」と他の人が使う「言葉」に対し敏感になり、それらを分析する力をつける。言語学概要、言語の特性について学んだあと、言葉の音声・音韻、形態について学ぶ。また、日本語が持つ特徴やメカニズムについても理解を深める。		
講義計画・内容	第1講: 言語の特性 第2講: 言語学の対象 第3講: 言語の種類 第4講: 言語学の諸分野 第5講: 音声学・音韻論1 音声器官 第6講: 音声学・音韻論2 母音と子音 第7講: 音声学・音韻論3 音声学と音韻論 第8講: 音声学・音韻論4 音素と弁別的素性 第9講: 音声学・音韻論5 超分節素 第10講: 形態論1 語彙素と形態素 第11講: 形態論2 形態素と異形態 第12講: 形態論3 語形成 第13講: 形態論4 語彙と文法範疇 第14講: 復習 第15講: まとめ		
準備学習	授業前に教科書を必ず読む		
教科書・教材等	言語学入門 - これから始める人のための入門書 佐久間淳一、町田健 他 著		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験 70% 小テスト30%: 小テスト3回 (試験範囲は伝えるが、試験・問題形式に関する質問は一切受け付けない。)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	授業内におけるスマホやタブレット端末の使用を禁止する。ただし、ノートテイクのためにタブレットを使用する場合は、必ず授業前に教員に申し出ること。		

## 2025 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専 門
授業科目名	言語聴覚障害概論	担 当 教 官 名	深見 真由 他
対 象 学 生	1年生	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士、言語聴覚障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>言語聴覚士の役割・多職種との関わりについて学ぶ。  言語聴覚士が関わる様々な障害について学び、言語聴覚療法の流れを知る。  15回の講義の内を通して、言語聴覚士の業務、聴覚障害・成人の言語聴覚障害についての概要を学ぶ。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語聴覚障害について、言語聴覚士の役割とは(山下)</li> <li>2. 言語聴覚士が関わる場面と時期(山下)</li> <li>3. 「言語聴覚士の業務」、言語聴覚士法(深見)</li> <li>4. 関連職種、チーム医療(深見)</li> <li>5. 障害体験、コミュニケーション支援(山下)</li> <li>6. 言語聴覚士が実施する評価①(野村)</li> <li>7. 言語聴覚士が実施する評価②(野村)</li> <li>8. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について①(上羽)</li> <li>9. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について②(上羽)</li> <li>10. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について③(木村)</li> <li>11. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について④(上羽)</li> <li>12. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について⑤(深見)</li> <li>13. 言語聴覚障害分野の歩み(木村)</li> <li>14. 言語聴覚障害への対応(成人例)(深見)</li> <li>15. 全体まとめ(上羽)</li> </ol>		
準備学習	予習と復習を行う		
教科書・教材等	言語聴覚障害学概論 第2版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	複数の教官による講義となります。各講義がつながっている事を意識して下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語発達学	担当教官名	竹内真理子
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語発達 前言語期 語彙獲得 認知発達 社会性の発達		
授業の概要 及び到達目標	<p>「ことばを遣う」ことは、私たち人間の特性のひとつである。子どもは誕生後から数年のうちに、基本的な言語能力のほとんどを獲得する。言語発達学は、この子どもたちの驚異的な言語獲得がどのようにしてなされ、そのためには何が必要で、何が欠かせないのかを理解していく学問である。本講義では、言語発達の理論的歴史から、音声・身振り・語彙・文法、さらに読み書きに至るまでの過程を習得する。定型発達の子どもの言語獲得の道筋を理解することは、言語獲得に障害を持つ子どもたちへの対応に欠かせないものである。</p> <p>*実務経験: 病院、相談施設等で30年以上の経験があり、子どもの言語発達を含めた発達全般への支援・指導、構音障害に対する構音指導、親支援などに携わってきている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「ことば」の一つの機能、「音」について理解し、詩を音にし、楽しんでみる。</li> <li>2. 言語獲得理論の動き</li> <li>3. 音声の獲得</li> <li>4. 身振りのことば</li> <li>5. 語彙の獲得</li> <li>6. 文法の獲得1 動詞を中心に</li> <li>7. 文法の獲得2 助詞を中心に</li> <li>8. 育児放棄事例のことばの発達</li> <li>9. 障害児のことばの発達 ピアジェの認知発達理論</li> <li>10. 障害児のことばの発達</li> <li>11. 障害児のことばの発達</li> <li>12. 障害児のことばの発達</li> <li>13. 談話(ディスコース)構造の発達</li> <li>14. 読み・書きの発達</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと(教科書を読む)。		
教科書・教材等	「新・子どもたちの言語獲得」大修館書店、「特別なニーズを持つ子どもを理解する」岩崎学術出版社		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語を含めた発達に障害を持つ子どもは勿論、成人の言語リハにおいても、子どもの言語発達過程を正しく理解していることは必須です。毎回の授業をしっかり聴いて、理解を含めてください。「言語」「ことば(音声言語)」に興味を持ってください。身近な子どもたちの様子を興味を持って見てみてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	言語発達障害概論	担 当 教 官 名	深見真由
対 象 学 生	1年生	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	標準的言語発達 言語発達障害 学習障害 特異的言語発達障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要                      ①言語発達障害の理解の前提となる標準的発達と発達の基盤、                      ②種々の言語発達障害の特性(国際的診断基準・疾病分類を参照)、                      ③それぞれの言語発達障害に適した評価と指導・支援体制の方向性</p> <p>到達目標                      上記の①②③について基礎的知識を得る</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準的言語発達・言語発達の基盤①</li> <li>2. 標準的言語発達・言語発達の基盤②</li> <li>3. 評価・検査</li> <li>4. 知的発達症(知的能力障害)</li> <li>5. 特異的言語発達障害・限局性学習症(限局性学習障害)</li> <li>6. 注意欠如多動症/自閉スペクトラム症</li> <li>7. 脳性麻痺・重複障害</li> <li>8. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版 シリーズ監修 藤田郁代 編集 玉井ふみ/深浦順一 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 (パソコン, プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	日常生活において、幼児の行動・遊び・ことばに注意を向けるように心がけてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	呼吸・発声・発語系の構造・機能・病態	担当教官名	末廣 篤
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	発声, 構音, 呼吸, 基礎講義		
授業の概要 及び到達目標	<p>下記の内容につき、系統的な講義をおこなう。①医学に関する総論講義②発声器官に関する各論講義③構音器官に関する各論講義④呼吸器に関する各論講義</p> <p>実務者経験: 2016年より京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、さらに2019年より同大学リハビリテーション科を兼任。音声、嚥下、栄養学、頭頸部癌の治療などを専門とする。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学概論</li> <li>2. 耳鼻咽喉科概論</li> <li>3. 言語障害</li> <li>4. 喉頭の解剖</li> <li>5. 喉頭の機能</li> <li>6. 喉頭の検査</li> <li>7. 喉頭の病態 1</li> <li>8. 喉頭の病態 2</li> <li>9. 構音器官の解剖</li> <li>10. 構音運動</li> <li>11. 構音器官の病態</li> <li>12. 呼吸器の解剖</li> <li>13. 呼吸機能検査</li> <li>14. 呼吸器の病態</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	クリア言語聴覚療法 8音声障害 (建帛社) 2025年2月刊行予定 ※授業ではほとんど使用しません。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験のみで判定(合格点は60%以上)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語聴覚領域は非常に範囲が広く、かつ複雑です。神経科学や呼吸器科学、耳鼻咽喉科学などの総論講義で基礎を固めてから、発声・発語に関連する各論講義を行います。特に復習をしっかりと行ってください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	失語症Ⅰ	担当教官名	木村奈緒
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	失語症 失語症の症状 失語症候群		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要: 言語聴覚士にとって、失語症は接する機会の多い障害である。評価・訓練はもちろん、失語症者や周囲の人達への働きかけなども求められる。また、急性期から維持期まで全ての時期にわたっての介入が必要となる。失語症学Ⅰでは、失語症の定義に始まり、神経基盤や症状、失語症候群について説明する。                      実務者経歴: 一般病院で28年間、急性期から生活期にわたって失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害に対するリハビリテーションに携わった。                      到達目標: ①失語症の定義や言語野の概要を説明できる。                      ②失語症の症状や失語症候群について、基礎的な知識を身につける。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 失語症とは(概論)</li> <li>2. 失語症の定義・原因疾患</li> <li>3. 失語症の症状①</li> <li>4. 失語症の症状②</li> <li>5. 失語症の症状③</li> <li>6. 失語症の症状④</li> <li>7. 小テスト① 言語と脳</li> <li>8. 失語症候群①</li> <li>9. 失語症候群②</li> <li>10. 失語症候群③</li> <li>11. 失語症候群④</li> <li>12. 小テスト② その他の失語症</li> <li>13. 純粋型・原発性進行性失語</li> <li>14. 関連障害との鑑別</li> <li>15. 全体まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後の予習・復習。授業の最後に復習シートを配布し提出、次回で返却。成績には加味しませんが自身の復習に役立てて下さい。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 失語症学(第3版) 医学書院 監修 藤田郁代		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	基礎的な内容ではありますが、1年生後期の失語症学Ⅱ、2年生前期のⅢにつながっていく内容です。実習にはもちろん、STとして従事してからも必要な知識ですので、十分に理解することが重要です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	小児科学	担当教官名	森本昌史
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	成長 発達 小児保健 小児の病態と疾病		
授業の概要 及び到達目標	小児の特徴である成長、発達について解説し、特徴がある小児保健、更には小児の病態・疾病について系統的に理解できるように講義を進める。特に言語聴覚領域において重要な分野については重点をおいて解説する。到達目標①成長・発達について理解し、説明できる。②小児保健(乳幼児健診、予防接種、学校保健など)について理解し、説明できる。③小児の病態・疾病について系統的に理解し説明できる。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の発達・成長</li> <li>2. 小児保健</li> <li>3. 遺伝疾患</li> <li>4. 神経・筋疾患</li> <li>5. 新生児疾患</li> <li>6. 循環器疾患</li> <li>7. 呼吸器疾患</li> <li>8. 免疫、アレルギー疾患・膠原病</li> <li>9. 内分泌、代謝疾患</li> <li>10. 感染症</li> <li>11. 血液疾患・悪性腫瘍</li> <li>12. 消化器疾患</li> <li>13. 腎・泌尿器疾患</li> <li>14. 発達障害・事故</li> <li>15. 小児科学のまとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前には教科書の該当箇所を読んでおく。授業後は資料、小テストについて復習しておく。		
教科書・教材等	言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 第2版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター等)		
成績評価の方法	定期試験 80%、小テスト(講義中に適宜、実施) 20% それらの総和で60%以上を合格基準とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語聴覚領域に関係する分野に重点を置きながら、小児科学全般にわたって講義をします。小児の言語聴覚の評価の役立つ小児科学の基礎知識が習得できるように積極的に取り組んでください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	心理測定法	担当教官名	陳 暁雪
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	心理物理学的測定法、テスト理論、尺度構成法、調査法、データ解析法		
授業の概要 及び到達目標	<p>本講義では、言語聴覚士にとって必要な心理測定法について学びます。具体的には、基本的な理論や実施方法、測定値の解釈方法などを学び、診断や治療計画に役立てることを目的とします。</p> <p>① 心理物理学的測定法、テスト理論、尺度構成法の各概念が理解できる。                  ② 各種調査法の概要と違いが理解できる。                  ③ 心理統計学における相関分析、回帰分析、分散分析などの基礎概念が理解できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学測定法の授業ガイダンスと講義概要</li> <li>2. 心理物理学的測定法</li> <li>3. テスト理論</li> <li>4. 妥当性と信頼性</li> <li>5. 尺度構成法</li> <li>6. 調査法</li> <li>7. 変数と要約統計量</li> <li>8. 統計的仮説検定</li> <li>9. 相関係数とクロス表</li> <li>10. t検定</li> <li>11. 分散分析(1)</li> <li>12. 分散分析(2)</li> <li>13. 回帰分析</li> <li>14. 因子分析</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料を使用します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	小テスト40% + 期末テスト60%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	心理学の知識はどのように生まれるのを理解するには、心理学測定法は重要な一環です。心理学統計法と測定法の内容は、言語聴覚士の実践には欠かせません。日常生活の例を思いながら学んでいきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	神経系の構造・機能・病態	担当教官名	木下彩栄 他
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経解剖、中枢神経、末梢神経、筋、機能局在、神経疾患		
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士として必要な神経系の構造・機能・病態について学ぶ。脳神経が障害されたときの症状を理解し、診断や治療につなげるためには、正確な神経解剖の知識が必要である。本講義では大脳から末梢神経、筋にいたる構造や機能を学ぶことで、病態を理解できるように教授する。また、神経系の疾患を診断するための検査技法についても教授し、言語聴覚士が遭遇する神経系の疾患の概要について修得する。本授業で神経解剖を学ぶことで、後期の履修科目の臨床神経学の理解につなげていく。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 総論、大脳・脳血管の肉眼解剖 (木下)</li> <li>② 神経生理学 (松橋)</li> <li>③ 末梢神経系の解剖 (松橋)</li> <li>④ 大脳の機能と局在診断(木下)</li> <li>⑤ 脳幹・小脳の機能と局在診断 (木下)</li> <li>⑥ 自律神経系・筋の解剖 (松橋)</li> <li>⑦ 電気生理学的検査法(松橋)</li> <li>⑧ 脊髄の機能と局在診断 (木下)</li> <li>⑨ 神経学的診察法 (木下)</li> <li>⑩ 脳神経系の疾患(1)脳血管障害 (木下)</li> <li>⑪ 中枢神経系の画像診断 (石津)</li> <li>⑫ 脳神経系の疾患(2)認知症 (木下)</li> <li>⑬ 脳神経系の疾患(3)神経変性疾患 (木下)</li> <li>⑭ 中枢神経・末梢神経系のまとめ (木下)</li> <li>⑮ まとめとテスト解説 (木下)</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	病気が見えるvol 7 脳・神経		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期テストで評価する		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	記憶することが多いので、整理して覚えること。後期の臨床神経学の理解のためにも、前期に神経解剖をしっかり習得するように心がけること。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	生理学	担当教官名	高橋 絵留美
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	からだの構造(かたち)と機能(はたらき)、細胞・組織・器官、各器官系のはたらき		
授業の概要 及び到達目標	<p>[授業の概要] 生理学は、からだの機能(はたらき)について学ぶ学問であり、言語聴覚士が携わる領域(言語聴覚、発声構音、摂食嚥下など)を理解する上で、基盤となる。本講義では、適宜、解剖学(からだの構造)についても触れながら、生理学の基礎的な内容について学ぶ。また、授業内容と関連させながら、解剖生理学分野の国家試験問題についても取り扱う。</p> <p>[到達目標] 本講義では、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。          ①からだの機能を細胞レベルで理解し、器官系ごとのはたらきについて説明できる。          ②生理学の知識と言語聴覚士の専門領域との関連について理解し、説明できる。          ③解剖生理学の言語聴覚士国家試験問題の概要を理解し、対応できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. からだの構造と機能の概論、細胞</li> <li>2. 遺伝とゲノム</li> <li>3. 組織、骨</li> <li>4. 体液と血液、免疫系</li> <li>5. 筋</li> <li>6. 神経系①</li> <li>7. 神経系②</li> <li>8. 神経系③</li> <li>9. 神経系④</li> <li>10. 神経系⑤</li> <li>11. 神経系⑥</li> <li>12. 循環系</li> <li>13. 代謝・栄養・体温</li> <li>14. 1～13回の振り返り</li> <li>15. 試験解説</li> </ol> <p>※項目は教科書の章に沿っていますが、学習順序は学習内容により変更しています。          ※上記は、状況により、変更となる場合があります。          ※感覚系の項目は神経系①～⑥の中で取り扱います。</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	『シンプル解剖生理学』(南江堂)、その他図解を中心に複数の教材から適宜引用・配布します。神経系の項目では『病気がみえる vol.7 脳・神経』(メディックメディア)も使用します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	本講義で取り扱う内容は、他の専門的・臨床的科目の基礎となりますので、授業には積極的に取り組んで下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	精神医学	担 当 教 官 名	船曳康子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	メンタルヘルス、心の健康、精神疾患		
授業の概要 及び到達目標	<p>各発達段階の心理的課題や精神の病について学習することで、精神の病の予防やそこからの回復について必要となる知識と見識を養うことを目的とする。こころの健康に関する個人的・社会的両面のさまざまな問題にとりくむための基本的能力を獲得する。</p> <p>実務者経験:平成8-9年京都大学医学部附属病院、平成9-11年京都市立病院にて一般臨床を行った。海外経験後、平成17年より京都大学医学部附属病院精神科神経科の外来を担当し、平成21年より同助教として一般精神科医療に加え児童青年期・発達障害を専門とする。平成27年より京都大学大学院人間・環境学研究所の教員として授業を行いながら、地域での実務を継続している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学総論とライフステージごとの特徴</li> <li>2. 発達とその障害</li> <li>3. 児童青年期の精神障害と人格形成</li> <li>4. 神経症など</li> <li>5. 気分障害</li> <li>6. 統合失調症</li> <li>7. 認知症とその他の精神障害</li> <li>8. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準精神医学／医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	精神医学を学ぶことによって、自身の健康維持、また周囲への配慮や支援を身につけてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	聴覚障害概論	担 当 教 官 名	岸田隆之
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	発達 構造・機能 疾患 聴覚リハビリテーション(成人・小児) 制度		
授業の概要 及び到達目標	<p>聴覚障害とそれに対する(リ)ハビリテーションの全体像をつかむことで、各論の講義に臨むことが必要である。本講義では以下の内容を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害の全体像をイメージできる</li> <li>・聴覚器官の構造と機能がわかることで、疾患の把握や聴覚障害の基本的な評価ができる</li> <li>・評価から(リ)ハビリテーションの大枠を作れる</li> <li>・聴覚補償機器の基本的知識を持つ</li> </ul> <p>実務者経験：1985年～2000年大阪府立身体障害者福祉センター附属病院耳鼻咽喉科にて臨床検査、補聴器適合等 2017年～ 神戸市障害者更生相談所補装具適合判定</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚の機能、聴覚の発達</li> <li>2. 聴覚障害とは、聴覚障害児・者の実態、難聴の分類、</li> <li>3. 難聴児・者のきこえ、難聴児・者とのコミュニケーション、各ライフステージにおける聴覚障害の影響</li> <li>4. 聴覚器官の構造・機能</li> <li>5. 聴覚器官の構造・機能</li> <li>6. 聴覚障害の評価(成人・小児)</li> <li>7. 聴覚障害の評価(成人・小児)</li> <li>8. 聴覚障害をもたらす疾患</li> <li>9. 聴覚障害をもたらす疾患</li> <li>10. 聴覚(リ)ハビリテーション(流れ、ライフステージ、方法) 成人難聴の聴覚リハビリテーション 小児難聴の聴覚リハビリテーション</li> <li>11. 小児難聴の聴覚リハビリテーション</li> <li>12. 聴覚補償機器(補聴器)</li> <li>13. 聴覚補償機器(人工聴覚器、その他)</li> <li>14. 制度、まとめ</li> <li>15. テスト解説</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学(第3版) 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プロジェクター、CDラジカセ(パソコンは持参)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	できるだけ聴覚障害の全体像が理解できるようにいたしますが、この講義をもとに各論で知識を深めていただければと思います。質問は随時受け付けます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	内科学	担当教官名	浜田智子
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	内科学 病態生理 疾患 診断・治療		
授業の概要 及び到達目標	<p>人体の構造・機能を理解したうえで、内科疾患の病態生理を理解する。さらに重要疾患の診断・治療も理解する。</p> <p>実務経験:大学病院の口腔外科にて脳血管障害、循環器疾患、糖尿病などの全身疾患を有した有病者の急性期観血的処置治療や入院下の全身管理下に口腔顎顔面領域の診療に従事。大学で研究の傍ら医療系の学生指導の経験を積む。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科学総論</li> <li>2. 呼吸器疾患</li> <li>3. 循環器疾患(1)</li> <li>4. 循環器疾患(2)</li> <li>5. 消化器疾患</li> <li>6. 肝・胆・膵疾患</li> <li>7. 血液・造血器疾患</li> <li>8. 腎疾患・水電解質異常</li> <li>9. 代謝性疾患</li> <li>10. 内分泌疾患</li> <li>11. 自己免疫疾患(膠原病)</li> <li>12. 神経・筋疾患</li> <li>13. 感染症</li> <li>14. 中毒疾患・その他</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前に教科書の予習を行うこと。		
教科書・教材等	指定教科書:中外医学社『内科学』、及び配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	テスト(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	受講にあたり毎回の予習・復習が大切です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	病理学	担 当 教 官 名	杉山 文枝
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	病期のなりたち、炎症、感染症、腫瘍		
授業の概要 及び到達目標	<b>【到達目標】</b> ①炎症にはどんなものがあるか ②感染症の成因 ③悪性腫瘍と良性腫瘍の違いが分かるように		
講義計画・内容	1. 病因 2. 炎症 3. 免疫アレルギー 4. 感染症 5. 腫瘍 6. 先天異常 7. 循環障害 8. まとめ		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	わかりやすい病理学 第7版 岩田隆子 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義(教科書、プリントなど)		
成績評価の方法	試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	疑問点はすぐに質問してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床心理学 I	担当教官名	古澤 文子
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	臨床心理学基礎理論 心理アセスメント 心理療法		
授業の概要 及び到達目標	<p>臨床心理学とは、心理療法の基礎理論であり、様々なこころの問題を抱えたひとと向き合い理解するという、対人援助における実践のための学問です。本講義では、理論と実践が不可分な臨床心理学について、下記に示す内容を到達目標として講義を進めます。</p> <p>①臨床心理学の基礎理論(発達、人格)について説明できる。                  ②心理アセスメントの方法を理解し、それぞれの長所・短所を説明できる。                  ③心理療法の基本的姿勢について、それぞれの立場の違いを説明できる。                  ④様々なこころの病いの症状とその解釈について、簡潔に説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 臨床の知とは何か</li> <li>2. こころの発達① 乳児期, 幼児期</li> <li>3. こころの発達② 児童期, 思春期, 青年期</li> <li>4. こころの発達③ 成人期, 壮年期, 老年期</li> <li>5. こころの発達④ 発達障がい/パーソナリティ理論</li> <li>6. 心理アセスメント① 質問紙法, 作業検査法</li> <li>7. 心理アセスメント② 知能検査, 発達検査, 神経心理学的検査</li> <li>8. 心理アセスメント③ 投影法, 描画法</li> <li>9. 心理療法① こころがまえ</li> <li>10. 心理療法② 非言語</li> <li>11. 心理療法③ 精神力動理論, 認知行動理論</li> <li>12. 心理療法④ 人間性アプローチ, 日本の心理療法</li> <li>13. こころの病い① 病いの分類と認知症, 統合失調症, 気分障害, 不安症群</li> <li>14. こころの病い② 強迫症, 心的外傷, 解離症群, 身体症状症, 摂食障害群, 睡眠-覚醒障害群</li> <li>15. 試験の解説とまとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。目に見えないものについても思いを馳せようと試みる姿勢が重要です。		
教科書・教材等	毎回授業では配布資料を使用する。必要に応じて参考文献も紹介する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン, プロジェクター, 検査用具		
成績評価の方法	毎回授業後に実施する小レポート30% + 期末試験70%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語聴覚士の国家資格試験のための学習のために、そして資格取得後の臨床実践現場における臨床心理学的理解のために、少しでも役立てられるよう授業内容を工夫します。オフィスアワーは設けませんので、質問等は授業前後の時間をご利用下さい。		

2025 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	高次脳機能障害 I	担 当 教 官 名	山下明宏
対 象 学 生	1 年 生	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	高次脳機能障害、失行、失認、記憶障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>高次脳機能障害の定義および基本的知識について、失語症を除く失認、失行、記憶障害、前頭葉症状などの症状を習得する。</p> <p>*実務経験:実務経験:2003年から2013年の期間内に病院で勤務し、主に失語症・高次脳機能障害・構音障害・嚥下障害に対するリハビリテーションに携わっていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳機能障害総論(脳の見方、主症状と背景症状、脳梁離断症候群)</li> <li>2. 高次脳機能障害総論(回復過程、リハの流れ、症状の見方、国際生活機能分類)</li> <li>3. 視覚認知の障害、視空間認知の障害①</li> <li>4. 視覚認知の障害、視空間認知の障害②</li> <li>5. 特異的な視覚認知障害、聴覚認知の障害、触覚認知の障害</li> <li>6. 身体意識・病態認知の障害、行為・動作の障害(失行・非失行性の障害)</li> <li>7. 行為・動作の障害(失行・非失行性の障害)①</li> <li>8. 行為・動作の障害(失行・非失行性の障害)②</li> <li>9. 構成障害、記憶障害①</li> <li>10. 記憶障害②</li> <li>11. 記憶障害③(健忘症状がある症候群)</li> <li>12. 認知症①</li> <li>13. 認知症②</li> <li>14. 前頭葉と高次脳機能障害(症状・評価・診断)</li> <li>15. 脳外傷・進行性疾患に伴う高次脳機能障害</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	『高次脳機能障害学 第3版』医学書院, 『失語症学 第3版』医学書院,		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	臨床場面につなげるための基礎知識となるため、予習・復習を行ってください。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教官名	山下 明宏 他
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	リハビリテーション医学、 医学的リハビリテーション		
授業の概要 及び到達目標	<p>リハビリテーションの理念と基本原則を理解し、更に医学的リハビリテーションの現状について理解を深めるための知識を習得する。</p> <p>単一疾患や障害のみを対象とするのではなく、重複障害に対するリハビリテーション医学・医療も求められている。今求められているリハビリテーション医学・医療を学び、現場でのリハビリテーションに活用できる知識を習得する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理想的姿勢運動発達の意味するもの1</li> <li>2. 理想的姿勢運動発達の意味するもの2</li> <li>3. 地域リハビリテーション論</li> <li>4. 脳卒中リハビリテーション</li> <li>5. 高次脳機能障害リハビリテーション</li> <li>6. 神経筋疾患リハビリテーション</li> <li>7. リハビリテーション概論1</li> <li>8. リハビリテーション概論2</li> <li>9. 言語聴覚障害者へのリハビリテーション1</li> <li>10. 言語聴覚障害者へのリハビリテーション2</li> <li>11. 多職種連携</li> <li>12. リスク管理 救命講習</li> <li>13. リスク管理 救命講習</li> <li>14. 多職種連携(PT、OT、看護師との連携)</li> <li>15. 多職種連携(PT、OT、看護師との連携)</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	現代リハビリテーション医学 改訂第4版 金原出版株式会社		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	複数講師によって構成されています。 復習をしっかりと行ってください。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	音声学Ⅱ	担当教官名	高橋絵留美
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	音、音声、IPA		
授業の概要 及び到達目標	<p>[授業の概要] 前半は、音声学の基礎知識の内、特に国家試験問題を解く際に重要となる用語を中心に復習を行います。後半は音声学分野を中心に国家試験問題に取り組み、その解法について学びます。また、音声学Iで学んだIPA (International phonetic alphabet: 国際音声字母)について、カード(IPAカード: 楽しく学ぶ国際音声記号)を用いて、知識の定着を図ります。</p> <p>[到達目標] ①音声学の基礎用語を理解し、その定義や内容について説明できる。 ②音声学の言語聴覚士国家試験問題の概要を理解し、対応できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション/音声</li> <li>2. 発声発語器官と構音/音声記号/分節音 ①</li> <li>3. 発声発語器官と構音/音声記号/分節音 ②</li> <li>4. 音素と異音/音節とモーラ/超分節的特徴(プロソディ)</li> <li>5. 日本語音声学 ①</li> <li>6. 日本語音声学 ②</li> <li>7. IPAカードで国際音声記号を学ぶ</li> <li>8. 国家試験問題に取り組む ①</li> <li>9. 国家試験問題に取り組む ②</li> <li>10. 国家試験問題に取り組む③</li> <li>11. 国家試験問題に取り組む④</li> <li>12. 国家試験問題に取り組む⑤</li> <li>13. 国家試験問題に取り組む⑥</li> <li>14. 振り返り</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後、自身の理解度に応じて、言語聴覚士テキストの該当する箇所を確認すること。		
教科書・教材等	『言語聴覚士テキスト 第4版』 医歯薬出版株式会社 『日本語音声学入門 改訂版』 三省堂 IPAカード: 楽しく学ぶ国際音声記号 (慶應義塾大学言語文化研究所)		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン, プロジェクターなど)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	音声学も他の科目と同様、国家試験に向けては暗記事項が多いですが、できるだけ楽しく取り組めるよう、ゲームも交えて知識の定着を図ります。国家試験問題に関しては、解法や問題の傾向などを今のうちから経験できる機会になると考えています。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語学Ⅱ	担当教官名	正田久美
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語、音声、言語理解		
授業の概要 及び到達目標	言語学Ⅱに引き続き、言語学概要を学ぶ。今期は、文法、語の意味、発話行為や機能、社会における言語について学ぶ。日本語が持つ特徴やメカニズムについても理解を深める。言語聴覚士の仕事に必須である「言葉」に敏感になることを目標とする。臨床現場に役立ち、応用できる言語学の知識を身につけ、言葉に対する感覚を鋭敏にする。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第14講 統語論1 統語構造</li> <li>2. 第15講 統語論2 句構造文法と変形文法</li> <li>3. 第16講 統語論3 生成文法</li> <li>4. 第17講 統語論4 統語事象</li> <li>5. 第18講 意味論1 意味の意味</li> <li>6. 第18講 意味論2 語の意味</li> <li>7. 第20講 意味論3 比喩と連語</li> <li>8. 第21講 意味論4 文の意味</li> <li>9. 第22講 語用論1 発話の意味</li> <li>10. 第23講 語用論2 場面と言語現象</li> <li>11. 第24講 言語と社会 言語変種</li> <li>12. 第25講 言語の変化</li> <li>13. 第26講 世界の中の言語</li> <li>14. 復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	言語学入門 - これから始める人のための入門書 佐久間淳一、町田健 他 著		
授業の形式 教育機器の活用	対面講義		
成績評価の方法	定期試験 70点 小テスト30点 (試験範囲は伝えますが、試験・問題形式に関する質問は一切受け付けません。)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	授業内におけるスマホやタブレット端末の使用を禁止する。ただし、ノートテイクのためにタブレットを使用する場合は、必ず授業前に教員に申し出ること。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	言語発達障害 I (精神発達遅滞)	担 当 教 官 名	木村秀生
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	知的障害、言語発達、インリアル、AAC、諸機関連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>「精神発達遅滞」は知的発達の障害である。知的機能や適応機能に基づいて判断されるが、その原因疾患は様々であり、その正しい診断が重要である。その診断に基づき、早期に治療・療育・教育を行う必要がある。</p> <p>支援を必要としている対象者が子どもの場合、その子の発達全般の客観的評価を行い、現状の能力を知る必要がある。その結果を親や幼稚園や学校の先生など子どもたちに関わる方たちと共有することも重要になる。</p> <p>この授業では、以上の様なセラピーを実施するために必要な視点とアプローチ方法について理解する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の諸相①</li> <li>2. 発達の諸相②</li> <li>3. 非言語的コミュニケーション</li> <li>4. 事例検討①</li> <li>5. 事例検討②</li> <li>6. 事例検討③(幼児 評価・支援)</li> <li>7. 事例検討④(学童 知的能力 評価・支援)</li> <li>8. 事例検討⑤(ダウン症)</li> <li>9. 事例検討⑥</li> <li>10. 事例検討⑦(知的障害)</li> <li>11. 事例検討⑧(支援)</li> <li>12. 事例検討⑨(支援)</li> <li>13. 事例検討⑩(支援・療育)</li> <li>14. 事例検討⑪(支援・療育)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版、配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	後期定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	質問は随時受け付けます。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	言語発達障害Ⅱ(脳性麻痺)	担 当 教 官 名	木村秀生
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	脳性麻痺、重症心身障害、嚥下障害、AAC、諸機関連携		
授業の概要 及び到達目標	脳性麻痺に伴う様々な障害を理解し評価訓練方法を習得する。 特に見ための「重度」にSTがとられず、児が潜在させているコミュニケーション能力・知的能力を「客観的」に評価するための視点とアプローチ方法を理解する。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳性麻痺概論(臨床像)</li> <li>2. 脳性麻痺概論(定義)</li> <li>3. 脳性麻痺の定義を中心とした国試問題演習</li> <li>4. 国試問題の続きと定形運動発達 について</li> <li>5. PVL/重症児臨床像とCom支援・国試問題</li> <li>6. 肢体不自由児へのコミュニケーション支援</li> <li>7. 肢体不自由児へのコミュニケーション支援続き</li> <li>8. AACについて</li> <li>9. シンボルコミュニケーション</li> <li>10. AAC国試問題・コミュニケーションロボット</li> <li>11. インリアルについて</li> <li>12. インリアルについて</li> <li>13. 国家試験問題</li> <li>14. ポジショニング・ハンドリング</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	授業資料のみ		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	後期定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	復習を行って下さい。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語発達障害治療学	担当教官名	竹内真理子
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	小児の知能・発達検査、知能・発達指数、発達プロフィール、手引書		
授業の概要 及び到達目標	<p>子どもの心身の発達状況を客観的に評価する方法として、知能検査及び発達検査がある。それらの検査結果から子どもの発達の特徴が理解でき、発達に問題を抱えている子どもには助言・支援に繋げていくことができる。小児用の知能・発達検査には様々な種類があり、その検査ごとに結果の表現や評価の仕方が異なる。社会の変遷・ニーズとともに変化してきた各検査の歴史を含め、それぞれの検査の理論的背景を理解し、各検査の実施方法、結果の出し方を習得する。</p> <p>*実務経験: 医療機関、相談施設等で30年以上子どもの臨床に携わる。唇顎口蓋裂、発達障害、自閉スペクトラム症等の子どもたちとの臨床及び子どもの養育者、子どもと関わる学校教師、幼稚園教諭、保育士、療育施設スタッフの方たちとの連携・支援にも携わる。</p>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達検査、知能検査の種類、活用について。質問紙「KIDS」実施。</li> <li>2. 「KIDS」の結果の出し方。津守・稲毛式発達検査について。</li> <li>3. 「新版K式発達検査2020」検査項目の説明、実施上の注意。</li> <li>4. " " 検査の実施、方法、結果の出し方。</li> <li>5. " " グループで検査実習。</li> <li>6. 「田中ビネー知能検査V」検査の歴史的背景、検査項目の説明。</li> <li>7. " " 結果の出し方。</li> <li>8. WISC-V (WISC-IV) 理論的背景。下位検査、結果の出し方。</li> <li>9. KABC-II 理論的背景。下位検査。</li> <li>10. " " 結果の出し方。</li> <li>11. PVT-R、国リハ式&lt;S-S法&gt;</li> <li>12. 国リハ&lt;S-S法&gt; 結果の出し方。</li> <li>13. DN-CAS認知評価システム。</li> <li>14. 検査結果報告書の書き方。新版K式発達検査2020結果の出し方の復習。</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	レジュメを参照。各検査マニュアル及び検査記録用紙。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、各検査用具など)、一部、検査実習。		
成績評価の方法	定期試験。		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	知能検査は100年以上の歴史があり、その時代状況の要請の中で、形を変えながら現在に至っています。その視点も大事に各検査を理解していくと、今の子どもたちの問題、必要な支援が見えてきます。それらを臨床に有効に役立てていくことができます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	構音障害(運動性)	担当教官名	上羽 悟
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	運動障害性構音障害、発話特徴、評価法		
授業の概要 及び到達目標	<p>運動障害性構音障害の概要を口頭にて伝えられる。                      運動障害性構音障害の症状を理解し、タイプ・症状別に分類ができる。                      発話に影響を与える、神経・筋系の病態を理解しその評価法を知る。                      演習を通して、評価の一連の流れ・問題点を理解・解釈ができる。</p> <p>実務者経験：                      介護老人保健施設にて9年、回復期リハビリテーション病院にて3年、成人・高齢者に対してのリハビリテーション業務を行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動障害性構音障害とは(定義)、神経系復習</li> <li>2. 障害構造、タイプ分類</li> <li>3. 原因疾患、発話特徴</li> <li>4. タイプごとの発話特徴</li> <li>5. 運動系の基礎理解、評価法の種類</li> <li>6. 評価法講義(GRBAS、発話特徴抽出検査)</li> <li>7. 評価法講義・演習(AMSD)①</li> <li>8. 評価法講義・演習(AMSD)②</li> <li>9. 評価法講義・演習(AMSD)③</li> <li>10. 評価法講義・演習(AMSD)④</li> <li>11. 評価法講義・演習(SLTA-ST)①</li> <li>12. 評価法講義・演習(SLTA-ST)②</li> <li>13. 評価結果のまとめ・問題点抽出①</li> <li>14. 評価結果のまとめ・問題点抽出②</li> <li>15. 全体まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	ディサースリア臨床標準テキスト[第2版] 医歯薬出版 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学[第3版] 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器, DVDなど)		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	前期で学んだ呼吸・発声・発語、神経系の授業資料も復習をしながら受講をして下さい。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	構音障害概論(機能性含む)	担当教官名	藤原百合
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	発話のメカニズム、発話の発達、機能性構音障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>正常な発話のメカニズムや発達を理解し、構音障害を来す原因や関連要因について学ぶ。主に発達途上に起こる機能性構音障害について、鑑別診断、評価方法、指導方法について学ぶ。また、実際の音声サンプルを用いて、評価・指導プログラムの立案の演習を行う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正常な発話のメカニズムを踏まえ、構音障害の概要について理解する。</li> <li>・機能性構音障害に対する評価・指導を模擬的に実施できる。</li> </ul>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常な発話のメカニズム</li> <li>2. 話ことばの発達</li> <li>3. 構音障害の原因、関連要因</li> <li>4. 構音障害の評価</li> <li>5. 特異な構音操作による誤り</li> <li>6. 構音検査法</li> <li>7. 構音評価演習</li> <li>8. 構音指導法</li> <li>9. 構音指導演習</li> <li>10. 機器を用いた構音指導</li> <li>11. ケーススタディ(1)</li> <li>12. ケーススタディ(2)</li> <li>13. グループ演習</li> <li>14. グループ演習</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>		
準備学習	事前に講義内容のスライドを配布します。教科書の該当する箇所を予習しておくこと。		
教科書・教材等	クリア言語聴覚療法5 小児発声発語障害 佐藤亜紀子、緒方祐子編著、建帛社		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験 90% 演習 10%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	知識として理解したうえで、適正音と誤り音の違いを自ら出しわけ体感してください。自ら考える態度を養ってください。質問を歓迎します。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床歯科・口腔外科	担当教官名	杉山 文枝
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	口腔、歯		
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯と口腔の発生や機能を学ぶ。</li> <li>・歯や口腔などの疾患により口腔の機能障害をもった患者の社会復帰への援助を行うことを目標とする。</li> </ul>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔について</li> <li>2. 歯の種類、数について</li> <li>3. 歯と顔面の発生について</li> <li>4. 歯の萌出時期について</li> <li>5. 歯数の異常</li> <li>6. 唇裂・口蓋裂について</li> <li>7. 唇顎口蓋裂の治療時期について</li> <li>8. 軟組織の病変</li> <li>9. 軟組織の病変</li> <li>10. 加齢による口腔変化</li> <li>11. 顎関節症</li> <li>12. 顎関節症</li> <li>13. 総復習</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 解説</li> </ol>		
準備学習			
教科書・教材等	教科書(臨床歯科医学・口腔外科学 言語聴覚学講座 医歯薬出版株式会社)、プリント、板書など		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、など)		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から 履修に当たっての留意点	教科書は難しいので授業に積極的に参加してください。 わからないときには、すぐに質問してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	耳鼻咽喉科学	担当教官名	小島 憲
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	耳鼻咽喉科学		
授業の概要 及び到達目標	耳鼻咽喉科領域を耳／鼻／咽頭／喉頭／気管食道／音声言語の領域に分割し、それぞれ解剖／生理／検査／疾患について講義を行う。言語聴覚士に必要とされる、国家試験レベルの耳鼻咽喉科領域の知識習得を目的とする		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 耳科学領域の解剖と生理について</li> <li>2. 耳科学領域の検査について</li> <li>3. 耳科疾患の病態／検査／治療について</li> <li>4. 耳科疾患の病態／検査／治療について</li> <li>5. 耳科疾患の病態／検査／治療について</li> <li>6. 鼻科学領域の解剖／生理／検査について</li> <li>7. 鼻科疾患の病態／検査／治療について</li> <li>8. 鼻科疾患の病態／検査／治療について</li> <li>9. 鼻科疾患の病態／検査／治療について</li> <li>10. 口腔咽頭科学領域について</li> <li>11. 喉頭科学領域について</li> <li>12. 気管食道科学領域について</li> <li>13. 音声言語科学領域について</li> <li>14. 音声言語科学領域について</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	教科書：イラスト耳鼻咽喉科(文光堂)、教材；プリント、スライド等		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	テストにて評価		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	国家試験合格を目的とした講義を行います		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	失語症学Ⅱ	担当教官名	木村
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必須	授業回数	23回
授業のキーワード	失語症 評価 検査 言語病理学的診断		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要:失語症学Ⅰで学んだ失語症の定義、症状や症候群の理解を踏まえ、評価・診断を正確にすることが出来るよう、実際の検査も演習形式にて行いつつ説明する。</p> <p>実務者経験:一般病院で28年間、急性期から生活期にわたって失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害に対するリハビリテーションに携わった。</p> <p>到達目標:①失語症状を評価し、言語病理学的診断ができるようになる。 ②評価・診断のために必要な検査を行うことができるようになる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに 評価・診断 情報収集</li> <li>2. インテーク面接 スクリーニング検査 総合的失語症検査</li> <li>3. SLTA(標準失語症検査)</li> <li>4. SLTA</li> <li>5. SLTA(演習)</li> <li>6. SLTA(演習)</li> <li>7. SLTA</li> <li>8. SLTA(演習)</li> <li>9. SLTA(演習)</li> <li>10. WAB失語症検査</li> <li>11. 認知神経心理学の情報処理モデル</li> <li>12. TLPA(失語症語彙検査)／SALA失語症検査</li> <li>13. WAB失語症検査(演習)</li> <li>14. TLPA／SALA(演習)</li> <li>15. STA(失語症構文検査)／トークンテスト</li> <li>16. STA／トークンテスト(演習)</li> <li>17. 重度失語症検査／CADL</li> <li>18. 重度失語症検査(演習)</li> <li>19. その他の失語症検査</li> <li>20. 関連する認知能力の検査</li> <li>21. 言語症状のまとめ</li> <li>22. 言語症状のまとめ</li> <li>23. 全体まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後の予習・復習 検査用具を用いての練習		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 藤田郁代シリーズ監修 医学書院 標準失語症検査マニュアル改訂第2版 日本高次脳機能障害学会編 新興医学出版社		
授業の形式 教育機器の活用	パソコン, プロジェクター, 検査機器など		
成績評価の方法	小テスト20% 定期試験80%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	失語症学Ⅰで学んだ知識をもとに、評価・診断を行っていきます。最終的に総合的失語症検査が実施できその結果をもとに評価できるよう、授業時間以外の時間も使って内容の確認が必要です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	小児聴覚障害	担 当 教 官 名	高井小織
対 象 学 生	1年生	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	聴覚障害 乳幼児聴覚検査 言語の発達 言語の習得と運用 保護者支援		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】</p> <p>・聴覚障害が言語および社会性の発達にどのような影響を与えるかについて考察を深める。様々な双方向型のワークや、動画・ゲストスピーカーなどを通して理解を促す。</p> <p>・また難聴発見から介入に必要な保護者のカウンセリング、幼児聴覚検査、補聴器及び人工内耳等の適応とそれらを活用するための様々な療育・教育における視点を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>・聴覚障害のある小児への基本的な検査法を理解し、結果を評価するとともに、言語を中心にした幅の広い発達に対して支援・指導を提案することができるようにす</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 小児聴覚障害の理解に必要な基礎的知識Ⅰ(音響心理学から)</p> <p>第2回 小児聴覚障害の理解に必要な基礎的知識Ⅱ(音声日本語の特徴から)</p> <p>第3回 小児の聴覚障害の発見と鑑別Ⅰ</p> <p>第4回 小児の聴覚障害の発見と鑑別Ⅱ</p> <p>第5回 小児の言語・聴覚ハビリテーションⅠ</p> <p>第6回 小児の言語・聴覚ハビリテーションⅡ</p> <p>第7回 小児の聴覚活用への支援Ⅰ</p> <p>第8回 小児の聴覚活用への支援Ⅱ</p> <p>第9回 小児の言語習得への支援Ⅰ</p> <p>第10回 小児の言語習得への支援Ⅱ(保護者 ゲスト)</p> <p>第11回 聴覚障害のある小児の社会自立までの見通しをもった支援・援助Ⅰ</p> <p>第12回 聴覚障害のある小児の社会自立までの見通しをもった支援・援助Ⅱ(聴覚障害のある若者 ゲスト)</p> <p>第13回 聴覚障害のある小児の保護者支援と療育・教育機関との連携Ⅰ</p> <p>第14回 聴覚障害のある小児の保護者支援と療育・教育機関との連携Ⅱ</p> <p>第15回 まとめと今日的課題</p>		
準備学習	授業前には予習を行い、授業後にはふりかえりの提出と復習を行うこと		
教科書・教材等	医学書院『聴覚障害学第3版』		
授業の形式 教育機器の活用	基本的にはパワーポイントを使用しながらの講義ですが、随所にグループ討議や双方向の活動を含みます。		
成績評価の方法	定期試験80% 授業内課題20%(授業内活動・レポート・各回のふりかえり)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	参考文献や資料リンクなどを提示するので、授業外の学習も期待しています。子どものきこえに興味をもつことは、言語や発達とも深く関わることに繋がります。積極的に意見交換をしてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	聴覚系の構造・機能・病態	担当教官名	十名洋介 他
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	聴覚伝導路の解剖と生理、難聴の病態、側頭骨内の関連する組織の構造と機能		
授業の概要 及び到達目標	<p>聴覚伝導路の解剖と生理、難聴の病態、側頭骨内の関連する組織の構造と機能を理解し、その説明ができる。 難病の病態を理解したうえで、診断に必要な検査を説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚イントロダクション</li> <li>2 外耳中耳の構造と機能</li> <li>3 内耳の構造と機能</li> <li>4 側頭骨周囲の構造と機能</li> <li>5 内耳道と中枢の聴覚伝導路</li> <li>6 音の伝達と増幅</li> <li>7 聴覚機能検査</li> <li>8 聴覚系のその他の検査</li> <li>9 中耳・外耳疾患とその治療</li> <li>10 内耳疾患とその治療</li> <li>11 後迷路性難聴</li> <li>12 聞こえと医学</li> <li>13 小児難聴①</li> <li>14 小児難聴②</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 (第3版) 監修: 藤田 郁代 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	専門用語に圧倒されず、各事項を関連付けて理解するようにしてください。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	聴覚心理学	担 当 教 官 名	古田功士
対象学生	1年生	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	音声の音響分析、音の3要素、ラウドネス、ピッチ、音色、等ラウドネス曲線、Phon、Sone、mel		
授業の概要 及び到達目標	<p>母音や子音として知覚される音声は、どのような音響特性を持って知覚されているかを理解し、サウンドスペクトログラムから読み取ることができる。音声学などのほかの音声言語関連の科目の知識も含めて、実際の音声について分析を行い、レポートにまとめることができる。聴覚心理について、聴覚の基本的な解剖生理の上に、本講義では前述の音声知覚も含め、音を大きさや高さとして認識する心理機構を学ぶ。</p> <p>【実務経験】言語聴覚士として病院にて成人(高齢者含む)の言語障害や発声発語障害のリハビリテーションに15年以上従事。また養成校における音声言語関連の非常勤講師をはじめ現職を含めて言語聴覚士養成教育に10年以上関わっている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声の音響特性と知覚(母音): 演習</li> <li>2. 音声の音響特性と知覚(閉鎖音): 演習</li> <li>3. 音声の音響特性と知覚(摩擦音、鼻音): 演習</li> <li>4. 日本語のアクセント、超分節的特徴について</li> <li>5. 日本語のアクセント、超分節的特徴の音響特性: 演習</li> <li>6. 音声の音響特性と知覚(総括)</li> <li>7. 音声の音響分析(実習)</li> <li>8. 音声の音響分析(実習)</li> <li>9. 音声の音響分析(実習) レポート提出</li> <li>10. 音の3要素について</li> <li>11. 弁別閾値、極短波などについて</li> <li>12. マスキング、臨界帯域幅について</li> <li>13. 両耳の聞こえ、環境と聴覚について</li> <li>14. 高齢者の聴覚について</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	聴覚心理学の前半は、前期で学習した音声学(音韻論)、音響学の知識を音声音響分析の演習することから始めるため、各分野を復習しておくことよい。授業前後にておいても各自、必要な復習、予習を勧める。		
教科書・教材等	言語聴覚士テキストの「聴覚心理学」の項をもとにした資料を配布する。 また各自、音声学、言語学、音響学などの資料を持ち込んでも可。		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	レポート(30%)、科目修了試験(70%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	演習やレポート課題は積極的な参加を期待しています。レポートは講義内でグループワークを中心にて作成します。欠席されないようご注意ください。1~9講目は音響分析の演習を行いますので、PC(OS:Windowsのみ)やマイクをお持ちいただける方はお持ちください。		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	聴力検査	担当教官名	佐藤 愛子
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	聴力検査		
授業の概要 及び到達目標	<p>言語聴覚士にとって必要な聴覚検査について、目的や方法、手順を学ぶ。 純音聴力検査、語音聴力検査、乳幼児聴力検査については方法、手順を習熟できることを目指す。 検査の知識を学び実技の練習を重ねることで、検者に必要とされる心構え、被検者への配慮を考え、臨床現場でのSTとしての基礎を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各検査の目的、意義、適応を理解し、方法、手段については実技での時間を多く設け理解できるように取り組む</li> <li>●検査結果を読み取り、STとして必要な支援を考える</li> <li>●純音聴力検査のマスクングについてはマスクング量の計算からプラトー法まで理解できるように取り組む</li> <li>●検査する側、される側の両方を経験することで検査者としての心構えを学ぶ</li> </ul>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 聴力検査を学ぶ上で必要となる聴覚の基礎</li> <li>2: 純音聴力検査</li> <li>3: 陰影聴取・純音聴力検査実施におけるマスクング</li> <li>4: 純音聴力検査(実技)</li> <li>5: 気道、骨導検査時のマスクング・プラトー法</li> <li>6: 語音聴力検査</li> <li>7: 気道、骨導検査時のマスクング・プラトー法</li> <li>8: 乳幼児聴力検査</li> <li>9: 乳幼児聴力検査(実技)</li> <li>10: 他覚的聴力検査</li> <li>11: 他覚的聴力検査</li> <li>12: 自分の声の大きさを知る(演習)</li> <li>13: 閾値上検査</li> <li>14: 特殊検査</li> <li>15: まとめ</li> </ol>		
準備学習	これまでの聴覚分野の講義で学んだことを復習		
教科書・教材等	南山堂 日本聴覚医学会編 『聴力検査の実際』		
授業の形式 教育機器の活用	講義・実技・オーディオメーター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>聴力検査の目的、検査結果から難聴の程度やタイプを読み取る力をつけ、難聴患者様への必要な支援がどういったものなのかということをもまずはご自身でしっかりと考え、理解していただきたいです。 マスクングについては、計算から正確な検査ができていくことを確かめられるように練習問題を繰り返し行っていきます。実技については「習うより慣れる」精神で積極的に自分からどんどん検査機器に触れてください。</p>		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床心理学Ⅱ	担 当 教 官 名	上松幸一
対象学生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	臨床心理学的支援、アセスメント		
授業の概要 及び到達目標	<p>臨床心理学の応用編として、福祉臨床の現場を中心に、さまざまな機関とのコラボレーションから理解する心理臨床の現状について講義を行う。</p> <p>また、言語聴覚士としても必須である、対象者の心理的サポートの方法について学習し、様々な問題に柔軟に対応できるようになることを目指す。</p> <p>なお、この講義は、長年児童福祉臨床で勤務し、さまざまな関係機関と連携を行ってきた臨床心理士の実務経験に基づいたものである。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1・オリエンテーション 心理臨床の現場 見立てや診断について</li> <li>2・福祉機関における心理臨床の現場 ①発達障害・知的障害</li> <li>3・福祉機関における心理臨床の現場 ②児童虐待によるトラウマ・PTSD①</li> <li>4・福祉機関における心理臨床の現場 ③児童虐待によるトラウマ・PTSD②</li> <li>5・福祉機関における心理臨床の現場 ④DV・性的被害</li> <li>6・医療機関と福祉機関のコラボ ①統合失調症・気分障害</li> <li>7・医療機関と福祉機関のコラボ ②パーソナリティ障害・強迫性障害</li> <li>8・医療機関と福祉機関のコラボ ③自殺対策・摂食障害</li> <li>9・保健機関と福祉機関のコラボ 子育て不安など</li> <li>10・教育機関と福祉機関のコラボ 不登校・引きこもり、学級崩壊</li> <li>11・実際の心理アセスメントについて 心理検査を中心に</li> <li>12・家族に視点を当てた対応 家族療法と家族面接・観察</li> <li>13・ソーシャルスキルトレーニングについて 認知・行動療法と集団療法</li> <li>14・支援者支援について</li> <li>15・まとめについて</li> </ol>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	教科書は特に使用しない。適宜、資料を配布する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)、および演習(ディスカッションなど)		
成績評価の方法	試験成績(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①20分未満の遅れの場合は遅刻扱いとなること。</li> <li>②20分以上の遅れの場合は欠席扱いとなること。</li> <li>③20分以上遅刻をし、欠席扱いとなっても、しっかりと残りの講義を聴講すること。</li> <li>④出欠席は必ず総授業時間数の3分の2以上すること、出席回数が3分の2に達しない者は本試験の受験資格を失う</li> </ol>		

## 2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床神経学	担当教官名	木下彩栄
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経系、神経・筋疾患		
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士として必要な神経系の構造・機能・病態についての知識をもとに、幅広い神経疾患における症状、診断、治療、機能予後についての知識を修得する。国家試験の該当分野において合格点を取れるレベルに達する。		
講義計画・内容	第1～2回 高次脳機能とその障害 (解剖の復習、血管支配と症状、失語など国家試験に出る部分を中心に) 第3回 高次脳機能とその障害 第4回 脳血管障害 第5回 認知症関連疾患 (AD, VaD, DLB, FTLD、tauopathy, iNPH) 第6回 アルツハイマー病(ビデオ学習) 第7回 パーキンソン病関連疾患 (PD, DLB, 薬剤性、血管性) 第8回 てんかん 第9回 神経筋疾患 第10回 脊髄小脳変性症、運動ニューロン病(ALS, SMA) 第11回 頭痛 めまい 一般内科疾患に伴う神経症状 第12回 頭部外傷 第13回 脳腫瘍 第14回 頭痛 めまい 一般内科疾患に伴う神経症状 第15回 まとめ		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	参考書:病気がみえる vol 7 脳・神経 第2版 2017年 メディックメディア 各回の授業において資料を配布する		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	期末試験にて評価する。60点以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	前期の神経解剖の復習をすること。授業においてしっかりと理解、記憶に努めること。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床神経学	担当教官名	木下彩栄
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経系、神経・筋疾患		
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士として必要な神経系の構造・機能・病態についての知識をもとに、幅広い神経疾患における症状、診断、治療、機能予後についての知識を修得する。国家試験の該当分野において合格点を取れるレベルに達する。		
講義計画・内容	<p>第1～2回 高次脳機能とその障害 (解剖の復習、血管支配と症状、失語など国家試験に出る部分を中心に)</p> <p>第3回 高次脳機能とその障害</p> <p>第4回 脳血管障害</p> <p>第5回 認知症関連疾患 (AD, VaD, DLB, FTLT, tauopathy, iNPH)</p> <p>第6回 アルツハイマー病(ビデオ学習)</p> <p>第7回 パーキンソン病関連疾患(PD, DLB, 薬剤性、血管性)</p> <p>第8回 てんかん</p> <p>第9回 神経筋疾患</p> <p>第10回 脊髄小脳変性症、運動ニューロン病(ALS, SMA)</p> <p>第11回 頭痛 めまい 一般内科疾患に伴う神経症状</p> <p>第12回 頭部外傷</p> <p>第13回 脳腫瘍</p> <p>第14回 頭痛 めまい 一般内科疾患に伴う神経症状</p> <p>第15回 まとめ</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	参考書:病気がみえる vol 7 脳・神経 第2版 2017年 メディックメディア 各回の授業において資料を配布する		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	期末試験にて評価する。60点以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	前期の神経解剖の復習をすること。授業においてしっかりと理解、記憶に努めること。		